

# 平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 756

所管部局	教育委員会	所管課	社会教育課	担当者名	前田・山下
事業名	青少年スポーツ育成事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	青少年スポーツ育成事業			政策体系	134
会計	一般会計	科目	10.教育 - 6.保健 - 1.保健		

## 1. 事業の概要

スポーツ振興を通じた子どもの体力向上は必要・不可欠である。子どもの体力向上のため、以下の事業を実施する。

## 2. 事業の目的と必要性

### ①施策で目指す目標との関連付け

スポーツ・レクリエーション活動の振興  
ジュニアスポーツの振興や優れた選手の育成を目的とした青少年スポーツの活動機会の創出や支援をするための事業

### ②事業を実施する必要性

普段から親しんでいる競技の技術力向上に加えて、異種競技の経験ができる場を提供する。また様々なスポーツが体験できる場(事業)を設け、スポーツを継続する機会を提供する。

## 3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	697	927	737	479	483	800	800
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	14	30	30	30
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	697	927	737	465	453	770
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.17	0.50			
人件費	千円	—	—	1,135	2,754			
事業費総額	千円	—	—	1,872	3,232			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

各種競技大会メダル等	125,400円
各種競技大会消耗品費	230,670円

## 5. 事業結果の概要

子どもサッカー教室(7月12日)
ナックルフォア体験(8月19日)
ジュニアバスケットボール教室(10月31日)
卓球講習会(11月1日) 他

## 6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) スポーツ教室		
●南丹市子どもサッカー教室（バニーズサッカーフェスタin南丹市） 会場：園部公園陸上競技場 目的：幼少期のスポーツ（サッカー）体験 対象：幼児～小学3年生（女子は小学6年生まで） 指導：バニーズ京都コーチングスタッフ、選手	7月12日（日）	38人
●ロータリークラブ ナックルフォア体験教室 会場：大堰川（八木町内）	8月19日（水）	
●南丹市小学生卓球教室 会場：園部B&G体育館 対象：小学生（低学年に重きを置く） 指導：福西力氏（チームストレート代表）、南丹市卓球協会	2月21日（日）	受講者 小学生17人
●トップアスリート派遣指導事業ソフトボール教室 会場：宮島小学校グラウンド 対象：小中学生 指導：松本直美（シドニーオリンピック銀メダリスト・内野手）	10月17日（土）	参加者 小学生62人 中学生22人
●ジュニアバスケットボール教室 会場：口丹波勤労者福祉会館 対象：市内スポーツ少年団、市内中学校、市内及び近隣高等学校 指導：京都産業大学バスケットボール監督・コーチ・選手	10月31日（土）	参加者 市内スポーツ少年団 32人 高校バスケット部 39人
(2) スポーツ大会		
●園部少年少女剣道大会 会場：園部B&G体育館 対象：市内小学生、中学生、高校生以上 規模：南丹市4地域から参加	11月23日（月）	参加者 小学生20人 中学生35人 高校生以上18人
●第4回南丹市軟式少年野球市長杯 園部公園スポーツ広場	4月17日（日）24日（日）	学童A 9チーム 学童B 6チーム
(3) 交流事業		
●南丹市スポーツ少年団交流事業 会場：府民の森ひよし、クラウンヒルズゴルフ倶楽部 内容：バーベキュー交流、ゴルフ体験 指導：長谷川義則プロ	10月25日（日）	193人参加

## 7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

スポーツを通じて競技力の向上と青少年の健全育成を図る必要がある。  
サッカーや野球、バドミントンといった一定充足していく競技大会だけでなくB&G財団と連携し、マリンスポーツ（カヌーなど）体験なども実施し、普段親しんでいるスポーツ以外の体験ができた。  
少子化による、対象児童生徒の減少への対処が課題

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点  
スポーツを通じて競技力の向上と青少年の健全育成を図る。
- ②当該事業のアピール事項  
サッカーや野球、バドミントンといった一定充足していく競技大会だけでなくB&G財団と連携し、マリンスポーツ（カヌーなど）体験なども実施し、普段親しんでいるスポーツ以外の体験ができた。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
少子化による、対象児童生徒の減少への対処が課題